

伝統的な

金居原太鼓踊り

No.31



金居原の太鼓踊りは、豊作、雨乞いの返礼踊りとして室町時代から始まったとされています。しかし戦後踊りが途絶え、昭和31年(1956年)に、太鼓踊りを存続させようと、保存会ができたそうです。その後4年に一度に八幡神社に奉納されるようになり、平成元年3月に県の選択無形民俗文化財に指定されました。太鼓踊りは、鐘打ちが2人、踊り子が4人、音頭をとる人が1人の7人で踊られるそうです。踊り子は20kg以上の衣装をまとって40分ほど踊り続けるそうです。衣装は華やかな着物の帯や短冊を飾った竹や太鼓などです。太鼓踊りはゆったりとしたリズムで覚えやすいそうです。しかし、いろいろな踊りの組み合わせがあって実際100通り以上の踊り方があるとのことでした。しかし、平成28年(2016年)10月の「長浜in祭り」の催しで太鼓踊りが踊られたのが最後で、現在太鼓踊りは人手不足で存続の危機に瀕しています。「踊りたい」「やってみたい」という人がいればいつでも教えてもらえるそうです。興味のある人はぜひ担い手になってみませんか。

選んだ理由

金居原の太鼓踊りは、とても昔から行われていることを聞いたことがありました。今は人手不足で踊られていません。でも「長浜in祭り」の催しでも取り上げられるほどの踊りです。そんな踊りが忘れ去れないようにと思って選びました。